

私は、北海道出身なのですが縁あって鹿児島市の主人のもとへ嫁に参りました。

我が子「大樹」が誕生したのは5年前の5月の事です。

妊娠8ヶ月目の時、突然破水してしまい、緊急に帝王切開の手術をしなければなりませんでした。

2ヶ月早い早産で、産まれた時は、1,800グラムしかなく、すぐ保育器に入れられてしまいました。

とても小さな身体で頑張っている我が子をガラス越しにしか見る事の出来ない私達夫婦は、「早く大きくなってね。」と祈るしかありませんでした。

そして、この子に身心共に大きくすくすくと育ててもらいたいという気持ちを込めて「大樹」と名付けたのです。

医者からは、2ヶ月位は入院しなければならないと言われていましたが、その名の通り大樹は、すくすくと育ち、1ヶ月もしないうちに退院の許可がおりました。その成長ぶりは医者も驚く程でした。

昨年、北海道の父から、大樹町の特別住民の話聞き、良い思い出作りにと応募致しました。

いつも私達家族の幸せを願ってくれていた父は、今年の4月に他界してしまいました。特別住民票は、父から私達への最後のプレゼントとなってしまったのです。

この場を借りて天国にいる父に言いたい「あなたの娘でいれて幸せでした」と…。

大樹がもう少し大きくなったら大樹町に遊びに行きたいと思います。

父の想いも一緒に連れて…。(母)



昭和57年4月14日、午後11時7分、体重3,490g、身長51センチの丸い顔と頑丈な身体、我が家の次男坊である「大樹」が誕生した。誕生時、お腹がすくと身体に似合わず泣き声が低く、母親はすぐに我が子とわかった様である。

現在は、体重63kg、身長173センチの大きな高校二年生である。小さい頃は熱をだしやすく、よく病院通いをする子であったが、今は、名前にふさわしく元気そのものである。

どこの家でも、初めて生まれる可愛い子供には、名前辞典などじっくり時間をかけ名前を決め子供の誕生以前には名前が先に誕生しているみたいですが、我が家も例外にらず長男「真吾」は、誕生日以前でありました。

一方、主人公の「大樹」の命名は、我が子に申し訳ないが、本人が誕生してから、奥の本箱から「名前辞典」を持ち出し悪戦苦闘、信じてもない字画占いなど調べても、なかなか決まらない。そんな折り、妻の母親方の親戚である白老町の山崎のおばさんから、「頑丈で元気でまっすぐにそだってほしい気持ちを素直に名前にしたら」とのアドバイスをもらい、大きな樹「大樹」とした。しかし、読み方に、また困惑「ひろき」「だいき」「たいき」……など様々な呼び方がある。当時、名前に大介などの「だい」の読み方が流行したこともあり「だいき」がいいのではないかと、となったが長男の名前より強くなるのではないかと、言うことで「たいき」ときまった。

我が子二人には、これからも健康で素直に生きてほしいものです。(父)



青森県弘前市の大樹さん

平成5年8月23日、自分にとって念願の男子を妻の瑞子が生んでくれた。私は嬉しくてしょうがなかった。何も言わなかったが妻にとても感謝している。最初の子どもは3つ上になるが女の子だ。彩香と命名した。さて二番目の子の名前を何と付けようかといろいろ考えた。名付け用の本を何回も読んだ。しかし、私がこれだと思う名前はその本には無かった。私は「名は体を現わす」ということを念頭に置いて考えていた…。



命名「大樹」とした。妻も同意した。私は大樹が小学校四年生位になったら一緒に極真空手を習いたいと思っている。そして20歳になったら一緒に男同志の酒を飲みたいと思っている。この二つが私の最大の楽しみである。さて命名だが拙ない私見を述べるより、尊敬する安岡正篤先生の命名に因む一文をここに引用紹介させて戴きます。

『命名は容易ならぬもの』

名前とか号とかいうものは、容易ならぬものなんです。命名という言葉がありますが、これは名をつけるという意味ですが、絶対という意味がある。この子供にこの名を与える、名の如くこの子供は、心構えをもち修養すれば、それでいいのだ。その他のことはいらぬ。数学的にいうならば必然にして充分だというような名のつけ方を命名というのであります。

『大樹將軍・馮異』

光武皇帝を輔けた者にとり禹、それから馮異という人がある。これは『左伝』や『孫子』の大家であり、いわゆる無欲恬淡というような人格者である。論功行賞の時には席を外して庭の木蔭におったというので大樹將軍という綽名があった。革命創業の際に功を競い、恩爵を争わないような人はどこの国の歴史にもめったにおらない。そういうことを考えると馮異という人がどんなに立派な人だったかということがわかる。—以上引用紹介です。

命名時私はそれほど厳肅には考えていなかったが、大樹という名前に素晴らしい出典がありホッとしている。ともあれ未だ見ぬ大樹町の大樹のように大地にしっかりと根を張り、健やかに、正しく、逞しく成長して下さいと願う。(父)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1922

「男の子のようですねえ。」

「えっまた、やっぱり…」

妊娠8ヶ月検診でのお医者さんの一言。思えば独身時代から娘が欲しかったが、二人目も男の子と判明。やっぱりそっかあ、今度もおなかの出具合同じだしなあ。まっいっかお下がり着れるし、経済的に助かる、親孝行だと思ふ事にしよう。でも待てよ、食べ盛りには二人でどの位食べるのかなあ、いやいや無事に産まれてくれれば…。検診後、家路に着くまでいろいろな事を考えて帰ったものだ。



さて、男の子と判明すると、名前を考えなくては。主人の名は宗一郎、父は宗三郎、栗原家では長男にはなぜか“宗”が付く。長男の時も、あつけなく宗志と命名。この子はどんな名前が良いか。やはり男の子であれば、大きく育てて欲しい願いから“大”の字を入れたい、と私。三つの候補を上げたまま、平成7年11月6日、3,312gで元気に産声を上げた。顔を見てから決めようとしていた名前は、出生届の期限が迫っても、なかなか決めかねていた。結局、主人の父に相談する事となり、「大河」大きな河に流されそうだから。「大海」響きが女の子だからとそれぞれ却下。そして「大樹」を上げると、大きな樹木のように大地にしっかりと根を張り、大空に向かって大きく伸び伸び育てて欲しいという願いからようやく決定。

そんな彼も4月から三年保育の年少さんに入園し、毎日元気に通園している。キティちゃんとピンクが大好きで、「大くんねえ、大きくなったらケーキ屋さんになりたいの…。」

と、女の子のような夢を語りながら…。
大器晩成、元気に大きくな～れ！！(母)

千葉県夷隅町の大樹さん

特別住民番号1935

昨年8月に待望の長男が生まれ、我が家は、それはもう大喜びでした。しかし、名付け役の主人が、生まれてからもずっと頭を抱え、「いい名前が決まらない…」となやんでいました。主人は自転車での旅が好きで、特に北海道が忘れられず自分の子には、北海道の地名にこだわりたいとずっと考えていたのです。おとし二人で行った美瑛を候補に上げましたが、女の子みたいだとあきらめました。そして退院する前日、心身共に、人にたよられるくらい、大きな樹のように立派に育て…と願いを込め「大樹」(寄らば大樹のかげ)と名付けました。



友人からは「すごい名前」「外国人みたい」とも言われますが、私も主人もとても気に入っています。おかげ様で、大樹も、すくすく育ち、かぜ一つひかず、健康そのものです。

今回、主人が新聞で、この企画を知り、計らずも、北海道に「大樹」という名の町があると知り、二重の喜びです。

この子が大きくなったら、三人で自転車にのり、大樹町を訪れる事を夢見ています。その時は、どうぞよろしくお願い致します。

遅くなりましたが、大樹町の益々のご発展を心よりお祈りさせていただきます。(母)

北海道北見市の大樹さん

特別住民番号1936

私達の子供が生まれる時は主人との約束事がありました。

それは男の子が生まれた時は主人が名前を決め女の子だったら私が名前を決めると言う事でした。

私の女の子の名前を決めると言う夢はかなっていませんが男の子二人に恵まれました。

長男を“大地”と命名しました。

命の原点である大地のように大きな夢と希望を持った男の子になってほしいと言う願いを込めてつけました。

そして次男が生まれた時親の願いは健康で兄弟仲良く育てくれる事でした。そして付けた名前が“大樹”です。

大きな土地に大きな根をはりしっかりと生きて行ってほしいと思い命名致しました。

現在、6才と3才の兄弟はときにはケンカをしたり助け合ったりと毎日元気良く大きさをさせて育てています。

親の想いがその通りに育つかどうかわかりませんが、この子供たちを生んで良かったと今は毎日思っています。

少し神経質ですがしっかり者の大地、そして、恐い者なしの大樹です。

このまま二人仲良く、大きい大地に大きい樹が育てくれる事を、両親共々願っております。(母)



富山県富山市の大樹さん

特別住民番号1944

ぼくの名前は、おじいちゃんの名前の大進から大の字をもらっておとうさんが、ひろきとつけてくれました。

とてもきにしています。



群馬県前橋市の大樹さん

特別住民番号1951

大樹は、平成5年5月22日に、我が家の第二子・長男として誕生しました。おなかにいる時から元気がよく怪獣がいるのかと思ってしまうほどでした。(第一子が女の子だったから余計にそう思ったのかもしれませんが。)



出産の時は、二人目は楽だと聞いていましたが、なかなか出てくれなくて、とても大変でした。それは、3,754gというジャンボ・ベビーだったからでしょうか。大樹という名前は、主人が何日も考えて、考えてつけた名前です。私は、本人に、とてもあっている名前だと思っています。生まれた時からずっと、体格の良い大樹と、漢字を見て、みんな納得しています。

生まれた時は、眉間にしわをよせていたので、赤ちゃんのうちから、むずかしそうな子だなと思いましたが、大きくなるにつれ、にこにこしていることが多く、おもしろいことも、言ったりするようになり我が家では、お笑い系の息子ということになっています。

大樹が生まれて、5年、経ちますが、大きな病気もせず、スクスクと育っています。これからの長い人生も、名前・大樹のごとく、身体・精神ともに、健康でスクスク育ってくれたらと思っています。

この度、日本に大樹町という名前の町があることを初めて知り、驚いたと同時に、光栄に思い、応募させていただきました。

北海道旭川市の大樹さん

特別住民番号1956

昭和63年9月24日。わが家の長男「大樹」が、誕生しました。はじめての子でもあり、名前をつけるのに、私(父)は、大いに張り切り随分と考えました。字画などには全くこだわりませんでした。強い人になるようにとか、優しい人になるようにとか、いくつか候補をきめ、最終的には、その中から妻が決めました。呼び方は「たいき」。大樹という名前には、良い響きを感じるとともに、大きな樹に寄りかかっているという強さと優しさの両方を兼ね備えているような気がして、大変気に入っています。



その大樹も、11才を迎えます。二人の弟もでき、野球少年団に所属して、毎日、元気に過ごしています。友だちからの愛称も、ずっと「たいき」で、同じ名前の町名である大樹町には、一才のはじめての長距離ドライブをかわきりに、何度も家族でおとずれています。写真は、はじめて大樹町に行った時のスナップです。大樹という名がついているだけで、何もかも愛着を感じました。大樹駅も、大樹神社も、おまけに、大樹郵便局では、わざわざ記念貯金をして、通帳まで作りました。でも、この通帳には、大樹郵便局とわかる印がどこにもなく、ちょっと残念でした。こんな親バカぶりを大樹が大きくなって親になった時に、自分の子供に話して聞かせて、一緒にこの地を訪ねてくれることを願っています。大樹よ、もっと大きく、もっと強く、太い幹にたくさんの枝、葉をつけて、太陽の下で、輝け！！親としていつまでも、見守っています。(父)

熊本県白水村の大樹さん

特別住民番号1957

私は、北海道の「大樹町」とは、ほど遠い、熊本県の阿蘇で生まれました。私は三人兄弟の末っ子として生まれてきました。

私が以前、父と母に名前に込められた意味を聞いたことがあります。

その時父と母は、「大樹が、10人で囲むぐらいの樹のように、心も体も、たくましい人間になってほしい」という思いでこの名前がつけられました。

今年で私は、20歳になりました。父と母の気持ちを半分は裏切らずに育っ



てきたと思います。なぜならそれは、体だけがしっかり健康そのものだからです。これから心も強くならねばと思っています。

高校を卒業してから、私は、大工見習として日々仕事に頑張っています。大樹の大と、大工の大が同じなので私としては、こういう小さな所がまた気に入っています。だから、新聞で、「大樹町」の事が記載してあったのを見て、心なしか感動しました。その記事を見てからというもの、

日本中に、呼び方は違っても「大樹」と書く名前をもっているのだろう。とか、同じ名前の人の仕事は何かなあとか、いろいろありすぎて、一人で考えが広まっていくばかりです。

まあ、私は、この名前を「大樹町」という地名があることを知ってより一層好きになりました。

これからは、「大樹町」に負けないくらい私自身も頑張っていきたいと思います。